

第 23 回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 議事概要

■日時:令和 6 年 11 月 20 日(水)17:00～18:00@Teams

■参加者:

<幹事団体>

別紙「参加団体一覧」参照(赤字は当日の変更箇所)

<事務局>

【内閣府】

大西 連	孤独・孤立対策推進室 参与
江浪 武志	孤独・孤立対策推進室 室長
由布 和嘉子	孤独・孤立対策推進室 室長代理
松木 秀彰	孤独・孤立対策推進室 参事官
堀江 典宏	孤独・孤立対策推進室 企画官(参事官事務代理)
土屋 皓嗣	孤独・孤立対策推進室 企画官
荒川 裕美	孤独・孤立対策担当室 参事官補佐
岡村 布美	孤独・孤立対策担当室 参事官補佐
吉田 康祐	孤独・孤立対策推進室 参事官補佐
古居 直高	孤独・孤立対策担当室 主査
山村 吾郎	孤独・孤立対策担当室 主査
松川 侑生	孤独・孤立対策推進室 主査付
玉田 瞳	孤独・孤立対策担当室 主査付

【一般社団法人 RCF】

前田 絵麻
井口 香穂
田中 陸

(以下、敬称略)

■意見交換要旨

□令和 6 年度 NPO 法人等調査

一吉田氏)今年度の調査目的は、これまで地方版 PF 推進事業を通じて実施された自治体の事業を通じて、自治体と民間団体等が水平的連携を図るためのポイントを探る事にある。これまで伊勢市/尾道市と 2 自治体のヒアリングが完了し、主なポイントの 1 つ目としては、トップのコミットメントが重要であること。市長自らが問題意識を持ち、積極的に関与しているという共通点が見られた。2 つ目として、部局・機関間の連携や巻き込みが重要であること。そのために何か特別な手法をとっているわけではなく、基本に忠実に 1 件ずつ丁寧な呼びかけや説明を重ねていた。3 つ目は、担当者の情熱が鍵であること。そして 4 つ目は、部局・機関の主体性を促すための手法として成功体験の共有という共通点が見られた。他方で、課題として PF の設立や運営へ向けて属人的要素が強く個人の繋がりに依存している面もあるが、進展には必要不可欠と考えられる。今後の予定として宇和島市でのヒアリングを踏まえ、最終報告書を取りまとめる予定。

□官民・民民連携の取り組み推進について

一西川氏)事業の目的は 日本全国の官民・民民連携事例を広く知ってもらうこと。具体的には事例を募集・選定し、取材や動画制作や報告書作成を通じて発信することを予定している。令和6年度は事例募集について新規事例が 19 件集まった。昨年度申請いただいた既存事例については 19 件の情報や進捗更新が寄せられた。これらに昨年度モデル調査事業等の事例を含めた中から、8 件を選定し、うち2件を動画作成し、残りの6件を取材、記事作成して発信することを予定している。

□分科会 1 について

一上原氏)取り組みの目的はこども向けのテキストを制作し、来年度からの運用開始を目指すこと。対象は小学校高学年から中学生。主に学校現場での活用を想定している。現在はノートルダム清心女子大学の助言を受けながら、テキストを制作中である。研修時間は 45 分を想定し、リスク対応やフォロー体制を明記する予定。また子ども家庭庁の意見を通じて、子供たちの意見も収集する。スケジュールとしては年度内にテキストを完成させる予定。

□分科会 3 について

一遠藤氏)取り組みの目的は 18 歳以下、特に若年女性を対象にした SNS・電話相談体制の構築と運用である。メール相談は 24 時間対応とする。年末年始(12 月 25 日～1 月 4 日)には Zoom を活用した電話・SNS 相談を実施予定。運営体制については SNS と電話相談を統合した仕組みを構築済み。相談員が Zoom 上で対応し、必要に応じて全国の支援団体へ直接繋ぐこととなる。今後 SNS と電話システムの視察環境を整備し、自治体や協力可能性のある団体へ情報発信を予定している。

□令和 6 年度第 1 回シンポジウムについて

一大西氏)3 部構成で、連携・協働に関する発表と議論を実施した。第 1 部では荒川補佐が制度に関する取り組みを発表。第 2 部で吉田氏と共に「連携協働とは何か」について講演。第 3 部では国と民間の連携事例として、奈良県生駒市の田中氏と新公益連盟の井澤氏がサポーター養成講座に係る事例を報告した。自治体と民間の連携事例では、座間市の佐藤市長と林課長、野村総研の生駒氏が地域一体となった取組、具体的には地方版官民連携 PF 事業の事例について発表した。民間同士の連携事例では、大阪ボランティア協会の永井氏や子育てひろば全国連絡協議会の奥山氏が発表した。パネルディスカッションでは各登壇者が連携・協働の事例を基に議論を展開した。時間が足りない部分もあったが、充実した内容となった。

□令和 6 年度第 2 回シンポジウムについて

一遠藤氏)テーマを「孤独・孤立対策とジェンダー(仮)」とし、来年 1 月頃の開催を予定している。第 1 部では伊藤公雄先生(京都大学名誉教授)、北仲千里先生(広島大学准教授)、宮本みち子先生(放送大学・千葉大学名誉教授)が孤独・孤立の現状や要因を解説し、問題提起を行う。第 2 部の先行事例では元島氏(NPO 法人場作りネット)、長島氏(プラン・インターナショナル・ジャパン)、安間氏(一般社団法人 SOGIE 相談・社会福祉全国協議会)が各分野の活動を紹介する。パネルディスカッションは「地域でのジェンダーの影響を踏まえた孤独・孤立対策(仮題)」等をテーマとし、埼玉県の大野知事や米山氏等を迎えて意見交換を予定している。今後、日程などの詳細を確定させていく予定。

□令和 7 年度孤独・孤立対策強化月間について

一荒川氏)前回幹事会の意見では以下の議論がなされた。テーマの方向性は「つながり」や「連携・協働」で良いが、表現が抽象的なため、メッセージングとしては具体的に掘り下げる必

要がある等のご意見も前回いただいたところ。また、メタバースの活用にあたっては、令和 6 年度の活用での反省を踏まえ、広報等の工夫が必要、他事例（自殺対策強化月間など）を参考にすべき等のご意見もいただいた。

令和 7 年度の方向性として全体テーマは「つながり」や「連携・協働」としつつ、具体的なメッセージは月間ポスターやHPのキャッチコピーにおいて明確化することとして、分科会 1・広報担当幹事で具体的な文面を検討してはどうか。

メタバース活用については今年度の振り返りをふくめ、誰でも自由に参加できる形とするか対象者を限定して事前登録制とするか、検討が必要であるが、孤独・孤立に悩んでいる当事者やその周辺の方を最優先の対象層としていることを明示していきたい。利用者間のコミュニケーションは R7 年度は今年度同様に制限しつつ、例えばピアサポートなどのグループチャットの実施などは、安全性を重視した上で長期的に実施を検討していきたい。

広報施策としてはポスターやホームページでわかりやすく伝える工夫をしていくが、デザイナー案を基にキャッチコピーを検討。ご参考にポスターデザイン案の第 1 稿を添付しており、今後分科会 1・広報担当幹事で修正案をさらに議論していきたいが、ご意見あれば頂戴したい。

一吉田氏)メタバース活用の狙いと課題についてメタバースを活用した背景について、具体的な意図や狙いは何だったか。電話相談を補完する形で導入されたと思われるが、昨年度の反響（批判も含む）が評価を難しくしている。話題性が生まれた一方で、逆効果もあった可能性がある。活用が有効であれば引き続き採用すべきだが、慎重な配慮が必要。メタバース活用によって実現できた特別な成果や目的が何だったのかを再検討する必要がある。

一荒川氏)令和 6 年度にメタバースを採用した理由は情報提供や講座の開催・相談機能などの一元的な提供を狙ったものがある。例えば、孤独・孤立問題の重要性や関連調査結果を伝える、対策に取り組む人々や全国の活動を紹介する、オンライン講座や相談を含む多様な機会を提供する、等を複数のウェブサイトに分散させず提供することができるためであった。また、相談手段の多様化の一環として電話相談に抵抗がある人や若年層に向けて、メタバース相談手段を試みたこともある。

一吉田氏)メタバースを導入した効果はあったのか。

一松木氏)ゴールデンウィーク中心に電話相談と並行してメタバース相談を実施。時間帯は夕方から夜間の 1 日 6 時間、5 日間の運営で 40 件の相談を受け付けた。メタバース相談に対するニーズを実感し、一定の手応えを得た。

一吉田氏)メタバース相談は他のツールではリーチできない層に届いており、その成果や意義があれば批判があっても推進すべきだと考えている。ただし、限られたリソースの中でどこに注力するかが課題であり、その点についても議論されることが重要。個人的には、リソースを有効に活用する方向で進めるべきだと思っている。

一北仲氏)ポスターデザイン案の A 案と B 案のメッセージについて、孤独な気持ちを抱えている当事者に向けて「つながれ」というメッセージを行うのと、周囲や社会に「手を差し伸べよう」というメッセージを発信するのでは意味が大きく異なる。例えば、暴力やハラスメントでは「相談してね」というメッセージが有効だが、孤独・孤立問題全般においては、当事者に「つながろうよ」と促す方がメッセージが効果的ではないか。そのため、孤独・孤立問題に対するメッセージは、「つながろうよ」といったより具体的な表現の方が適切だと感じている。

一遠藤氏)メタバースは相談の場としてではなく、居場所の提供に適していると感じている。特に、相談後の「次のステップ」としての緩やかな居場所として有効だと考えている。メタバースで根本課題を解決することは難しいが、当事者が抱える喪失感等に対して居場所を提供することが重要だと認識している。メタバースは閉鎖的な空間で当事者にとって安全な居場所を提供できるため、地方自治体などでも活用可能だと考えている。

一根岸氏)メタバースのプラットフォームに多くの団体や地域が参加しているが、最近では案内が少ないと感じている。当事者や関心のある方々が参加できる交流や意見交換の機会を増

やすことが重要だと考えている。分科会や幹事会を通じて、他の団体と連携し、忘れられた地域や団体も活性化させるために呼びかけの機会を作るべき。

―荒川氏)議題 1 はここまでとさせていただく。業者から提案されたキャッチコピーはあくまでたたき台であるため、具体的な文面については広報担当幹事を中心に議論を進める方向でよろしいか。

―幹事一同)異論なし。

―荒川氏)ではその方向で進めることに決定する。その他の意見がもしあれば事務局宛に後日メール等で提出するように依頼したい。

□令和 6 年度通常総会関連イベントについて

―荒川氏)これまでシンポジウムのテーマ候補として挙げた「ケアリーバー」や「若者支援」を今回のテーマとすることも考えられる。その場合は当該テーマを提案いただいた米山氏、そして第 2 回シンポジウムと同じ体制となるが遠藤氏に担当幹事となっていていただき、シンポジウム同様に担当幹事にて企画詳細等を検討していく方向としたいがいかがか。

―米山氏/遠藤氏)その方法で差し支えない。

―荒川氏)では早速に担当幹事会の日程を調整させていただき、企画を検討していきたい。

以上

**第 23 回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
幹事会(オンライン)参加団体**

団体名	出席者 (⇒代理出席又は欠席)	幹事会 へ一任
全国社会福祉協議会	村木 厚子(むらき・あつこ)会長 ⇒代理出席 水谷 詩帆 地域福祉副部長	—
全国社会福祉法人経営者協議会	磯 彰格(いそ・あきただ)会長 ⇒代理出席 宮内良樹 法人振興部副部長	—
認定 NPO 法人日本NPOセンター	吉田 建治(よしだ・けんじ)事務局長	—
NPO 法人新公益連盟	小沼大地(こぬま・だいち)代表理事 ⇒代理出席 井澤徹 孤独・孤立担当 堀内美穂 事務局次長	—
NPO 法人あなたのいばしょ (SNS相談コンソーシアム)	根岸 督和(ねぎし・まさかず)理事長 ⇒代理出席 大島拓人 事務局長 上原純枝 チャット相談事業部部長	—
NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク	清水 康之(しみず・やすゆき)代表 ⇒代理出席 根岸親 副代表	—
一般社団法人 日本いのちの電話連盟	堀井 茂男(ほりい・しげお)理事長 ⇒代理出席 小西慶直 孤独・孤立相談プラットフォーム事務担当	—
一般社団法人 社会的包摂サポートセンター (よりそいホットライン)	遠藤 智子(えんどう・ともこ)事務局長	—
一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク	奥田 知志(おくだ・ともし)共同代表 ⇒欠席	—
認定 NPO 法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ	湯浅 誠(ゆあさ・まこと)理事長 ⇒代理出席 西川紗祐未 孤独・孤立対策担当	—
一般社団法人 全国フードバンク推進協議会	米山 広明(よねやま・ひろあき)代表理事	—
認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ (シングルマザーサポート団体全国協議会)	赤石 千衣子(あかいし・ちえこ)理事長 ⇒欠席	—
NPO 法人全国女性シェルターネット	北仲 千里(きたなか・ちさと)共同代表	—

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会	奥山 千鶴子(おくやま・ちづこ)理事長	—
---------------------	---------------------	---